

2007年6月の東北地方の天候

【6月の特徴】

- ・ 高温
- ・ 多照

（1）2007年6月の概況

この期間、中旬までは南海上の太平洋高気圧は北への張り出しが平年より弱かった。このため、梅雨前線は日本の南海上に停滞することが多く、東北地方では上空の寒気の影響で雷雨となった日があったものの、移動性高気圧におおわれて晴れる日が多く、気温も高かった。下旬になると、南海上の太平洋高気圧が強まり、東北地方は梅雨前線や低気圧の影響によりまとまった雨となった。また、東北北部・東北南部ともに21日ごろに梅雨入りしたと見られ、平年と比べ東北北部で9日、東北南部で11日遅い梅雨入りとなった。

東北北部の地域平均月間日照時間は1946年以降で6月の極値を更新した。

月平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北地方でかなり多い。

（2）各旬の天候経過

上旬：前半は高気圧におおわれて晴れの日が多かった。後半は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、雨や雷雨の日が多く、6日から7日かけては、雷やひょうによる被害があった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

中旬：高気圧におおわれて晴れの日が続き、気温の高い日が多かった。14日から15日は本州南岸を進んだ低気圧の影響で広い範囲で雨となった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北地方でかなり多い。

下旬：梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。26日には上空に寒気を伴った低気圧の影響により、一時激しい雨となったところがあり、浸水や土砂崩れなどの被害があった。29日から30日にかけては、東北地方を梅雨前線上の低気圧が通過し、東北地方のほぼ全域でまとまった雨となった。

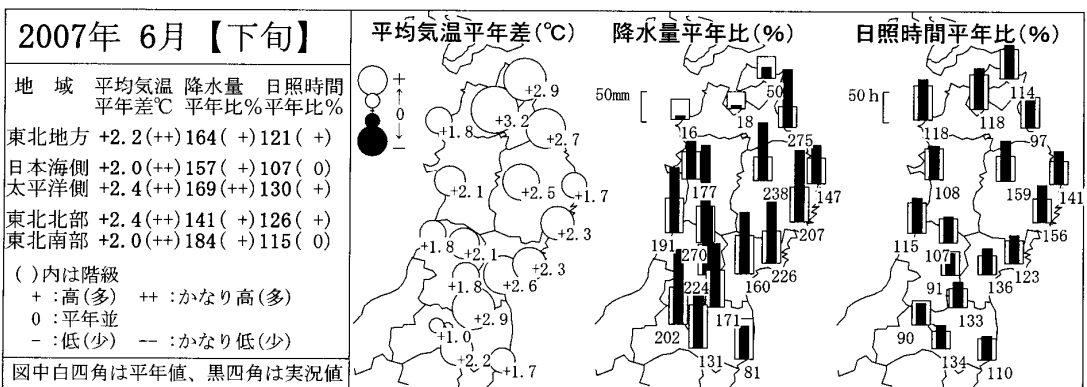
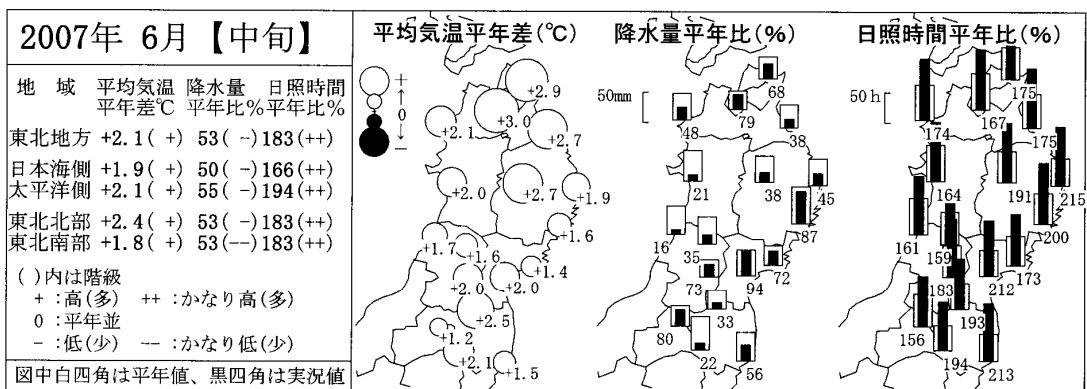
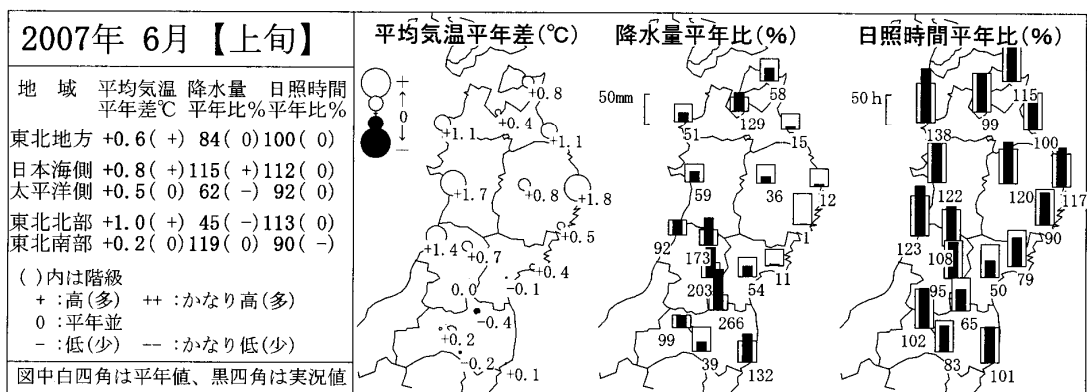
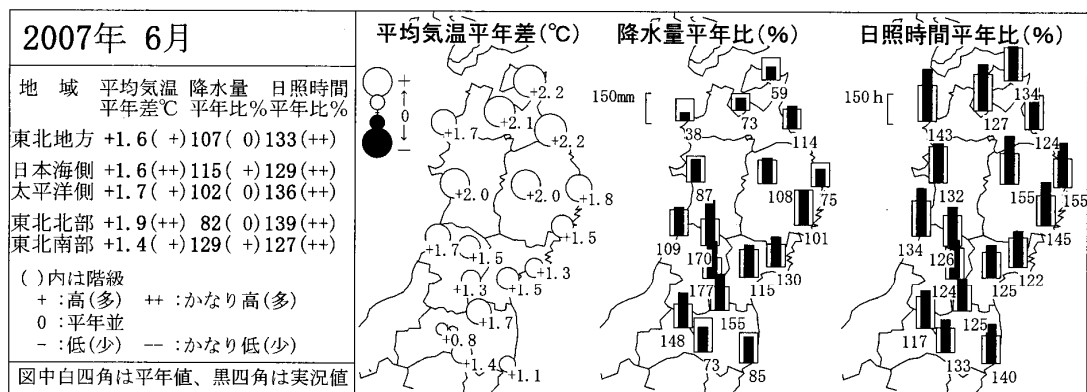
平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2007年6月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注 1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2007 年 6 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比) 階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	19.1	(+2.1)	＋＊	60.0	(73)	○	7	230.3	(127)	＋＊
深 浦	18.9	(+1.7)	＋＊	42.0	(38)	－＊	6	257.6	(143)	＋＊
む つ	17.8	(+2.2)	＋＊	64.0	(59)	－	8	218.0	(134)	＋＊
八 戸	18.3	(+2.2)	＋＊	113.5	(114)	＋	8	209.9	(124)	＋＊
秋 田	20.8	(+2.0)	＋＊	111.5	(87)	○	8	234.6	(132)	＋＊
盛 岡	20.2	(+2.0)	＋＊	124.5	(108)	○	8	234.9	(155)	＋＊
大 船 渡	18.8	(+1.5)	＋	173.0	(101)	○	6	214.4	(145)	＋＊
宮 古	17.8	(+1.8)	＋	88.0	(75)	○	7	218.3	(155)	＋＊
仙 台	19.8	(+1.5)	＋	159.0	(115)	＋	10	160.4	(125)	＋
石 巻	19.0	(+1.3)	＋	145.0	(130)	＋	10	177.4	(122)	＋
山 形	20.8	(+1.3)	＋	182.0	(177)	＋	13	191.1	(124)	＋
新 庄	20.2	(+1.5)	＋＊	222.5	(170)	＋	9	191.7	(126)	＋＊
酒 田	21.0	(+1.7)	＋＊	139.0	(109)	○	8	235.3	(134)	＋＊
福 島	21.6	(+1.7)	＋	183.0	(155)	＋	12	162.0	(125)	＋
若 松	20.6	(+0.8)	＋	171.5	(148)	＋	13	185.0	(117)	＋
白 河	19.8	(+1.4)	＋	122.0	(73)	－	15	162.0	(133)	＋＊
小 名 浜	19.4	(+1.1)	＋	127.5	(85)	○	10	193.6	(140)	＋＊

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

＋:高い(多い) ○:平年並 －:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「＋」に＊を付加した。この場合には

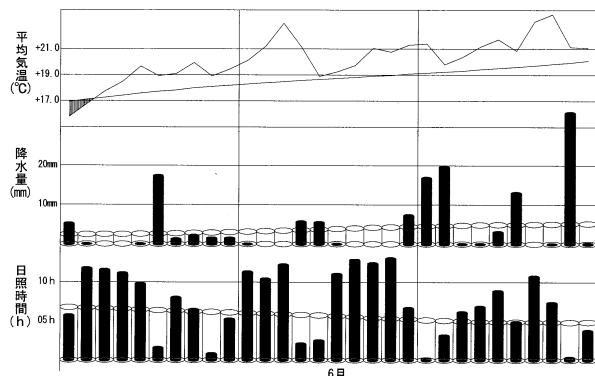
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

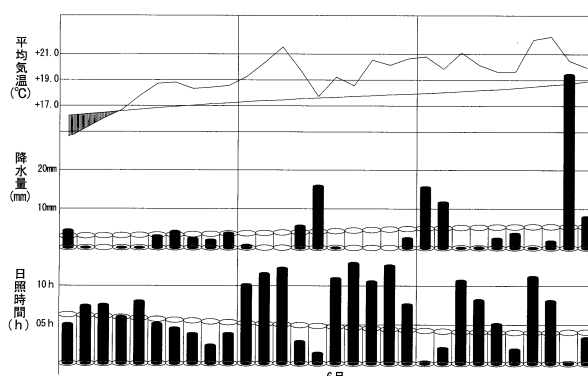
3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2007 年 6 月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温:実線と点線、降水量・日照時間:黒い円柱と白抜き円柱)

(6) 2007 年 6 月の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の 3 位まで。)

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	深浦	18.9 =	+1.7	18.9 (1946)	1940	17.2
	盛岡	20.2	+2.0	20.1 (1991)	1924	18.2
2	むつ	17.8	+2.2	18.2 (1991)	1935	15.6
3	青森	19.1	+2.1	19.8 (1991)	1886	17.0
	秋田	20.8	+2.0	21.2 (1916)	1886	18.8
	酒田	21.0 =	+1.7	21.6 (2005)	1937	19.3

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	深浦	257.6	143	237.2 (1986)	1940	179.6
3	盛岡	234.9	155	246.3 (1925)	1924	151.7
	大船渡	214.4	145	235.9 (1967)	1964	148.2

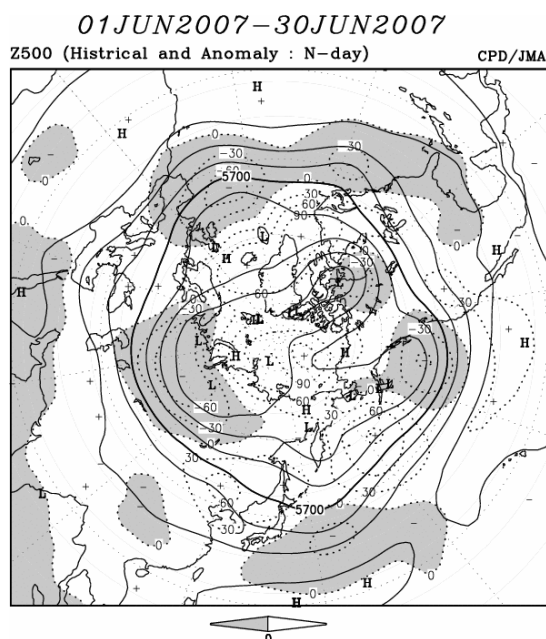
(注) 順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

値の横に「=」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている（資料不足値）。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。

平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 2007 年 6 月の循環場の特徴

500hPa 高度では、中国北部からオホーツク海、アリューシャンにかけて正偏差が広がった。一方、南海上の太平洋高気圧は北への張り出しが平年より弱く、偏西風（亜熱帯ジェット）が平年より南に位置したため、日本の南東海上は帯状に負偏差が広がった。このため、東北地方は中緯度の高気圧におおわれ、晴れて気温の高い日が多くなった。また、梅雨前線は日本の南海上に離れて位置することが多く、梅雨入りは遅れた。



2007 年 6 月の平均 500hPa 高度

実線は等高線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）

(8) 各地の梅雨入り（速報値）

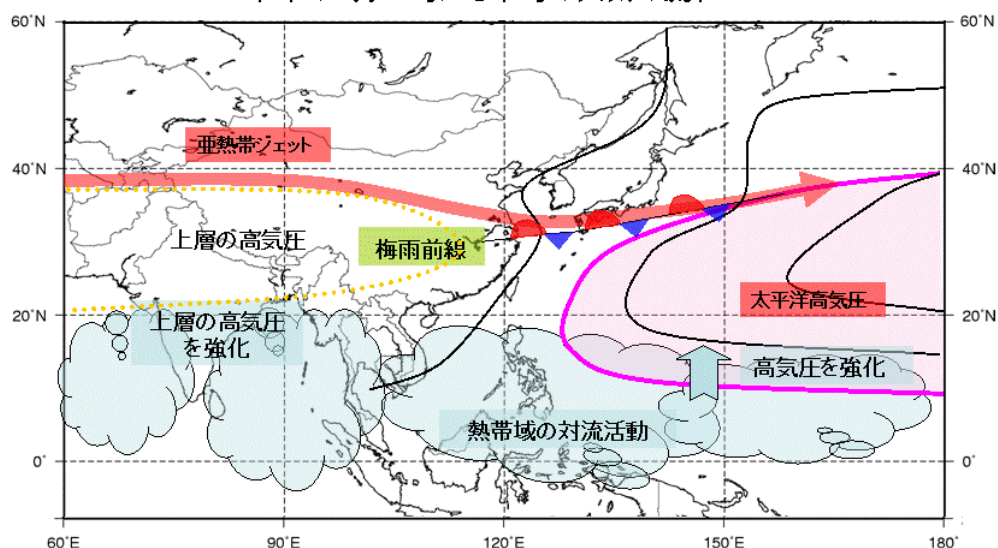
2007 年(平成 19 年)の梅雨入り					
地方	2007 年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	5 月 16 日ごろ	8 日遅い	2 日遅い	5 月 8 日ごろ	5 月 14 日ごろ
奄美	5 月 26 日ごろ	16 日遅い	15 日遅い	5 月 10 日ごろ	5 月 11 日ごろ
九州南部	6 月 1 日ごろ	3 日遅い	6 日遅い	5 月 29 日ごろ	5 月 26 日ごろ
九州北部	6 月 13 日ごろ	8 日遅い	5 日遅い	6 月 5 日ごろ	6 月 8 日ごろ
四国	6 月 13 日ごろ	9 日遅い	5 日遅い	6 月 4 日ごろ	6 月 8 日ごろ
中国	6 月 14 日ごろ	8 日遅い	6 日遅い	6 月 6 日ごろ	6 月 8 日ごろ
近畿	6 月 14 日ごろ	8 日遅い	6 日遅い	6 月 6 日ごろ	6 月 8 日ごろ
東海	6 月 14 日ごろ	6 日遅い	6 日遅い	6 月 8 日ごろ	6 月 8 日ごろ
関東甲信	6 月 14 日ごろ	6 日遅い	5 日遅い	6 月 8 日ごろ	6 月 9 日ごろ
北陸	6 月 21 日ごろ	11 日遅い	6 日遅い	6 月 10 日ごろ	6 月 15 日ごろ
東北南部	6 月 21 日ごろ	11 日遅い	12 日遅い	6 月 10 日ごろ	6 月 9 日ごろ
東北北部	6 月 21 日ごろ	9 日遅い	6 日遅い	6 月 12 日ごろ	6 月 15 日ごろ

(9) 梅雨入りが遅れた要因について

梅雨前線が平年に比べて南に位置した理由として、①アジアモンスーンの対流活動によって強められる上層の高気圧が中国大陸東岸で弱く、偏西風（亜熱帯ジェット）が日本周辺で平年より南に位置していた、②日本の南海上で太平洋高気圧の北への張り出しが弱かった、ことがあげられる。

熱帯の対流活動は、ベンガル湾からフィリピン東海上にかけて不活発で、大陸東岸の上層の高気圧や太平洋高気圧の北への張り出しが弱かった一因となっているとみられる。

平年の6月上旬から中旬の大気の流れ



2007年6月上旬から中旬の大気の流れ

